PDA 即興型英語ディベート キーノートディベート（第 38 回）

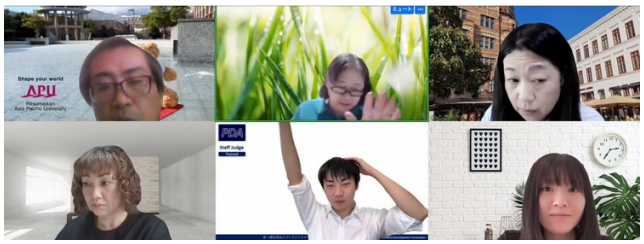
一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2026 年 10 月 3 日（土）14:00-15:30
会場：オンライン（Zoom）
参加者：8 名（ディベータ 4 名、ジャッジ 1 名、見学 3 名）

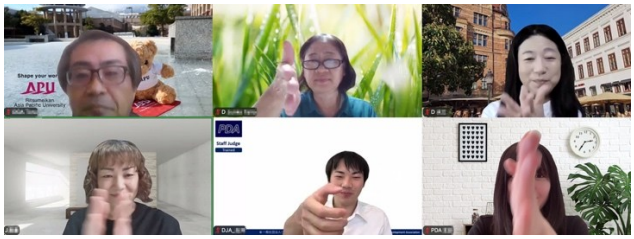
ディベートの様子

今月のキーノートディベートの論題は、**“The government should invest more public funding in the research and development of new antibiotics to combat antibiotic-resistant bacteria.（政府は、抗菌薬が効かない細菌への対策として、新たな抗菌薬の研究開発により多くの公的資金を投入すべきである。）”** でした。

肯定側は、政府がより多くの公的資金を投入することで、新たな抗菌薬の研究開発を促進できると主張しました。また、公的資金による支援によって抗菌薬をより手頃な価格で提供できるようになり、経済的に困難な状況にある人々も必要な治療にアクセスしやすくなると論じました。一方、否定側は、限られた公的資金を新たな抗菌薬の研究開発に投入するよりも、他の医療政策や社会的課題への対策に活用した方が、より多くの人々に利益をもたらすことができると主張しました。ディベートでは、公的資金の投入による新たな抗菌薬の研究開発や治療へのアクセス改善と、限られた公的資金を他の政策に活用することのどちらを重視すべきかが主な争点となりました。特に、新薬開発の必要性と、政府がそのために公的資金を投入することの妥当性が比較されました。



ディベートの様子



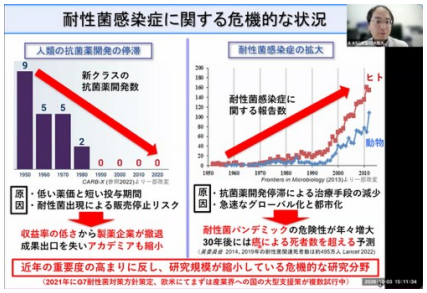
ディベート後の握手

ディベートのフィードバックのあとは、キーノートレクチャーの時間です。今回のキーノートスピーカーは、大阪大学産業科学研究所准教授の山崎聖司氏でした。

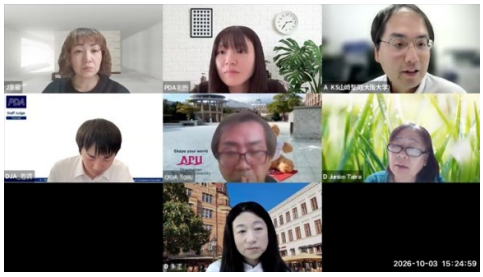


キーノートスピーカーの紹介

キーノートスピーカーの山崎氏からは、薬剤耐性菌をめぐる現状と、新たな抗菌薬の研究開発が抱える課題について説明がありました。耐性菌による感染症の脅威が高まる一方、抗菌薬は収益性が低く、製薬企業の研究開発からの撤退が進んでいることや、欧米では公的資金によって研究開発を支援する取り組みが進められていることが紹介されました。また、従来とは異なるアプローチとして、菌が抗菌薬を排出する仕組みを阻害する山崎氏の研究についても紹介されました。質疑応答では、耐性菌を研究する研究者が減少している背景や、大学と製薬企業における研究の違い、製薬企業が将来必要となる薬をどのように見極めているのかなど、多様な観点から質問が寄せられ、今回の論題を研究・開発の現場からさらに深く考える機会となりました。



キーノートレクチャーの様子



質疑応答の様子

参加者の声（アンケートより抜粋）

・抗生物質について、様々なことが言われていますが、専門家から正しい現状をお聞きできてとてもためになりました。
・抗菌薬が作られる過程に種類があることや企業と大学で研究の方法に違いがあることを初めて知った。数十年で抗菌薬ができることなどディベートでも活かしたい。
・自分が知らない分野について、初めて知ることが多く勉強になりました。
・山崎先生のキーノートスピーチの内容について、貴重な内容で楽しく聞かせていただきました。